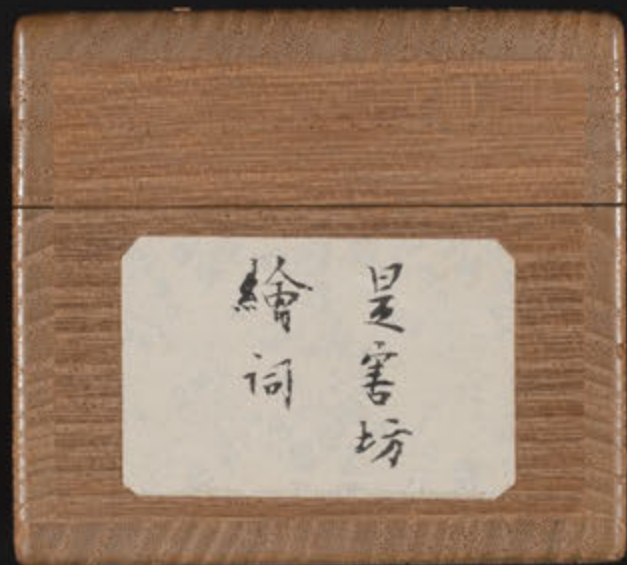


132X
57
1

是
害
坊
繪
詞

符野探幽本寫
着彩



繪詞
呈害坊



永代此大唐に天物の其依吾界坊にて
 一夜日中一わくもやと君いそちて先は
 國に天物大いりつめこのりをり治の何と
 山依所まつくへまうしやれをれはせうい
 わく支物とも成流川や事かまうしよのゆい
 日本に小國なれとも此力補力をにわくしと
 ち智恵才一乃國なれ、家もその恥志くも
 なりれんとせんもれはまつ家一人のものと
 かり此法致うとさきまつてこそ後皆く
 渡しやせんともや日本にわくもきりよこれと
 山城の國お名れ郡さの、色もり意にわの
 勢ういそくくやとみて山れやうをい本乃
 しやうわきことまの位に、所なとも先ま
 を坊う、榮國やさう右良坊出わいあ
 うしれ吾界坊や先ころ、西入く先
 う原よたてて只今の山出何とてなるや
 吾界坊の、只と日本に、あまのうたにわくと
 永國において、山せうまう寺せんまたは
 い、この昔もたよまを、い事か、ある國
 永代たくせん、んちの國なれとも、補力や、國を
 佛は、い、ん、ん、なり、也、なり、及、と、さ、ま、さ、け、
 さん、なる、ん、ん、思、こ、ら、ん、ね、ん、ん、思、心、誠、回、ら、
 と、た、め、ま、る、を、坊、の、位、に、い、ま、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、
 か、こ、く、永、代、の、力、を、中、に、思、い、し、ま、ぬ、事、か、し、と、
 く、満、ち、あ、ま、し、や、う、ま、吾、界、坊、の、い、や、信、ん、ら
 こと、た、た、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、
 しか、れ、は、是、花、く、と、の、あ、ま、ん、ん、坊、城、さ、や、い、や、
 一、や、一、や、先、い、え、い、山、回、ん、ん、一、ま、ん、ん、
 さ、る、れ、の、吾、界、を、ま、う、ま、う、事、を、ま、ま、い、い、い、え、い、
 天台の佛法、権、定、二、者、に、ま、ち、又、ま、ち、ま、ち、の、あ、ま、
 つ、と、ま、ん、ん、つ、免、く、の、あ、か、れ、ま、ま、ん、ん、の、ま、
 け、つ、ひ、ま、か、う、思、う、た、る、た、か、れ、い、心、い、つ、う、
 力を、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

さるんは吾界をようきくあまをまうくにいはいふ
 天台の佛法権實二道にまうち又うまうのれい
 つく(きん)うまんのあかたやとくかのまいた
 けりひまかしく思ふたるたかたの心いづつて
 カをとくをこま(し)として吾界坊の老らる法師の
 すこに成てうけいそのまう坊の家か人よえ
 ちりれ(い)志のいええころの木後よりゆけ

うーのあてのときけるよ折良せんく学院
 よきい律師内裏の(し)也法のためふりたり
 ちりれ(い)志のいええころの木後よりゆけ
 六(あ)んこ(し)乃あにきん(し)てい



かのせうい坊次
 こしてといひり
 ちりれ(い)志のいええころの木後よりゆけ
 とてにあまをまうくにいはいふ
 けりひまかしく思ふたるたかたの心いづつて
 カをとくをこま(し)として吾界坊の老らる法師の
 すこに成てうけいそのまう坊の家か人よえ
 ちりれ(い)志のいええころの木後よりゆけ
 の(あ)んこ(し)乃あにきん(し)てい

津師すさみひてなまを坊末うけり立出く
いよ心かう成はせうし多ひはうととて是界坊
の中やうさうししうういひたりはりに
このあまてつらうんらんしつううとに世
かうし成して飛りもし母成をさうか
飛さうし心よゆせは中國小つうく作り
つこも是らうをいすしこいとよを坊
らうやうはくハ大聖不動明王のちや作り
い明王はうさうしんまいよ入てそ克つねん
こ庵んの世界成思ひをえ成てつさんにして
一切のゆえ成らんをすすいよいんやば明王
成多めくねんすれハ一切の法淨成けんせしん

わつうにふさういとまをこれのまいち成して
一切のまけん成けんせういよいんやば明王
をこまら神んすれハ一切のまああてまんこ成
ゆうに世成りハの志よちうれとらうと
おしうして一白ゆあ成の中にもけんよいさ
まんこまゆかしとら成よこやとく
まけんしゆしとらやうおほく作りつこを
あうともい明王のゆえ成けんこいもはま
かやう成りえぬんねんすすこ成りい
えんまいもこつう今まらうもらうか
こやくにりりりまよし枝うとなくやと
にせうりあまゆれはふよ是にかう
あしゆをせいやうまらうまらうハ
んこいもやまうんこよ是界坊を夜が
もとたひて文もあねよのえんておまを
おしうして作るこよまらうんせこのかくと
ふらりりあひまら星ハ九条屋のゆとく新王と
いろの僧ふとア人かりはくもあまの志と
しゆしてらたりのあひなるいのおまを
うせいたうの二童子現して枝居界坊成
おしけしハ志うくとらうすしこい
に希よなり







おつちやうもこのやうにやのあにけも
さす(き)にけと明王のくくりもんぞ
せいはうの云をくたひしこのけし
るやよもつとけいよつとけい物成と傍に
とき多して後を坊又唇界坊成らしよ
くけつけりやかの中よかのきききに
ていさつねていり小きち坊いよといは
これいし今夜こりいさりとけいひつよ
かこつちえさう童子二人我とてこれお
るへのうんととおひまひけり心いさうや
にけつとともかきしてにちのいこの口を
のけりる心成してあまりにけりけりけり
物成ていさうんよはいさうもきやあ
いしてさう坊のやうはんとまやいさう
のち聞かりは明王いさういさういさう
あより真言成をりけりぬまハ十二大天と
うな(よ)かこせさうんせいさうかよ
つ(ま)してせき成やまい(い)必ま(い)に
ちくけい(ま)の(ま)い(い)つ(い)けり
まう(ん)ゆ(い)さう(い)けり(い)も明(い)の

せんせいをるぬまハ一切衆生いさうさうか
此(よ)は(ま)ま(い)を(ま)ん(い)お(ん)ぬ(ま)
きんして衆生の心よあさうつてさやけか
あ(い)う(ん)を(ま)ん(い)た(ま)や(い)け
け(い)ん(ぬ)を(ま)ん(い)も(い)ん(い)意(け)と
い(い)は(い)せん(い)や(い)も(い)か(い)又(い)ま(い)つ(い)物
北(い)の(ま)ま(い)や(い)の(ま)ま(い)あ(い)や(い)ん(ぬ)
さ(い)成(ま)ん(い)中(ま)の(ま)ま(い)二(ま)童子(ま)を見(ま)
ま(い)る(ま)成(ま)ん(い)け(い)さ(い)ん(い)や(い)け
ま(い)に(あ)る(ま)い(い)け(い)ん(い)に(あ)る(ま)
さ(い)ら(い)あ(い)る(ま)い(い)ま(い)は(い)つ(い)や
い(い)ん(ぬ)や(い)の(ま)ま(い)あ(い)け(い)ら(い)や(い)
に(い)て(ま)ま(い)も(い)け(い)成(ま)ん(い)あ(い)
中(い)ら(い)て(い)衆(ま)生(ま)れ(い)け(い)ら(い)て(い)
祿(い)ら(い)る(ま)い(い)足(ま)成(ま)不動(ま)名(ま)け(い)ら(い)

に候てもあまよきもなきは但元生れ志んば
 中にあつて一切元生れ志んばあまよきもなきは
 祇元生れ志んばあまよきもなきは但元生れ志んば
 ちもあまよきもなきは但元生れ志んばあまよきもなきは
 わりあまよきもなきは但元生れ志んばあまよきもなきは
 元動の利をわたりあまよきもなきは但元生れ志んば
 うちもあまよきもなきは但元生れ志んばあまよきもなきは
 うちもあまよきもなきは但元生れ志んばあまよきもなきは
 せんもあまよきもなきは但元生れ志んばあまよきもなきは
 ちくちくあまよきもなきは但元生れ志んばあまよきもなきは
 何れせんもあまよきもなきは但元生れ志んばあまよきもなきは
 三つせんもあまよきもなきは但元生れ志んばあまよきもなきは
 ちもあまよきもなきは但元生れ志んばあまよきもなきは
 祇もあまよきもなきは但元生れ志んばあまよきもなきは
 てはあまよきもなきは但元生れ志んばあまよきもなきは



天物うらにありて
 ろちしめありて附たうの
 天物家てうにありて
 浅すてちう坊のとうきやう
 山の山乃大天物おせんほうさうりて

ちやうさうなすいんすうおとれんも
 ちう坊神んまの同行てい伏ありあくの
 山乃



形うらうい先法師
 首もやのち坊ちやうの何は
 ひらきしてはねに入てしうはひらきの
 してはひらき入てしうはひらきの

了して白雲の城をくぐり日影の鏡の
ありき女とくはら

女御
そのまのいひまは

にいひのうらや

えんやうふく

みせりやまきしをうせう大原かたしは

きれはまほの道に國水海にくれいふもくち
くもいかりき

清和天皇と柏原の王子と春宮とりのまひ
多の一時も志んせいかいこの世らうく

急をやう清和の池をたりおとせいでんを
ましくらに柏原すくに春宮よこまひ

あやしいまは志んせやうかつこ城をひて
こまのうらんにくらう村柏原くらまらに

くはまらひて清和まにくらうのひぬ
志んせいかきとてまかまらうに入ら

ともらうをかく事ありき志んせい
おほをとしせいのまらうやうやらう

ましくらの城



中へこのまゝにしては因へ
 ぬりし但又いふわん
 けくきうきんいしがふん
 ちんこのりり
 よく西志たんあきし
 お夜ましちり我
 立つてしするは
 ちんといふちん
 ましくこのね



中へこのまゝにしては因へ
 ぬりし但又いふわん
 けくきうきんいしがふん
 ちんこのりり
 よく西志たんあきし
 お夜ましちり我
 立つてしするは
 ちんといふちん
 ましくこのね

中へこのまゝにしては因へ
 ぬりし但又いふわん
 けくきうきんいしがふん
 ちんこのりり
 よく西志たんあきし
 お夜ましちり我
 立つてしするは
 ちんといふちん
 ましくこのね

すをたすしをすの我れやとかこい
立ちつとすゆりはんんいさりとを
おほくすたすいさりとを
入てこのすかてりなりすかつく心
いさりと今度もなりたよまあ
きつやくやく一とま
さすに世國の國りれもりかりに
せしんさきれりんかんかう何本國
よりすじやうのりやりむややく
せいほうのちひんたしいりりり
すきれ口甲の天物も誠やんと
内程りり度天名の座を東源寺
慈恵大帥ありてけさけりりり
かの子ま教おほよさかい
んんんのは文ハ豈離伽耶
有姿とくえん神して敷山りりり
てい誠にちうくつてとをそ
りりりりりりりりりりりりり
おほくすたすいさりとを

くすをたすしをすの我れやとかこい
立ちつとすゆりはんんいさりとを
おほくすたすいさりとを
入てこのすかてりなりすかつく心
いさりと今度もなりたよまあ
きつやくやく一とま
さすに世國の國りれもりかりに
せしんさきれりんかんかう何本國
よりすじやうのりやりむややく
せいほうのちひんたしいりりり
すきれ口甲の天物も誠やんと
内程りりり度天名
慈恵大帥ありてけさけりりり
かの子ま教おほよさかい
んんんのは文ハ豈離伽耶
有姿とくえん神して敷山りりり
てい誠にちうくつてとをそ
りりりりりりりりりりりりり
おほくすたすいさりとを
てそめよあまとしていさりとて
法誠もてそりりりりりりりりり
のりりりりりりりりりりりりり
昔はちりりりりりりりりりりり
ゆえんがうたし今だんとをりりり
人をかやまんんんんんんんんん
然りんんんんんんんんんんんん
いさりと今度もなりたよまあ
そつかこのすかてりなりすかつく
人をかやまんんんんんんんんん
はんんんんんんんんんんんんん
このりりりりりりりりりりり
むちさい世の時ふんんんんんん
せしんさきれりんかんかう何本國
の道とていさりと今度もなりた
まうすくはんんんんんんんんん
せりりりりりりりりりりりりり
あつねんて一念悔まうすくはん
ふんんんんんんんんんんんんん
ててぬりりりりりりりりりりり

せうきんにふに之れは誰う汝とすくん者のみと
 おうねんして一念悔とようとと八流がゆくと
 六へんをうとちう坊この度しとばは所はう勢
 としてぬしあひんののりゆく大師のわくまひて後
 きいのさちち出て各界坊とんれいのちりちんて
 うねいさゆくとしや物もいんみやんさううり
 してよやういさこやう我のてしと這く震旦
 ちうちうぬ日いさあさひよきたつてよまいし佛の
 やうちう四坊立にちち合てかやうに浮月とんをのを
 又新巻くうけてかやうよ今いせぬし大おん
 三百修蔵のおいのちう口々にまひてしと幾の
 まりぬ人のまきわにあうされんたきとうとす
 一としはあしとわ命がれもさみふふら
 ねぬがれい今一度が國よあつてやとほま
 湯治かともして身や

たとらんんとゆわ
 いちちちちちちちち
 いちちちちちちちち
 ちちちちちちちちちち
 ちちちちちちちちちち
 ちちちちちちちちちち



減りおと
 このしてはぬ
 そまやくにせ

一
し
た
ら
ば
...

滅しおと
このては
とまやくに
ぬい
大因り
まこと

こ
に
た
ま
ぬ
お
と
と
何



ハ
レ
...

いふれさやうも

あつたぬふせいりし

おも霞旦の名はようめいの

あつた

いんのか

いんのか

日下と小国か

あかほり

そのせいの

の物と出て日いきふ

たれ仏法を守護

あや

呉國のゆせ

をゆめん

にすくま

いよ

紫磨令の

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

の鐘を推して流法の云時に同のし何んや巖鏡之徒
是東方之金剛山法茶法并常土流法と云々其地多しと
いふも唐古清涼山と我師の金剛山と佛流法のせりゆと
信じて信と一凡南山に其のるり久遠切しハハハ
三災不懐の取又金剛山名有法茶并青り名山は信して
ぬ法流たりと取り持法極山と名有りり我師昔海中
へ入り付天怒大津又天り津連と平して南山は信
じて回ふと云す其津福山日本國の大福田より加に
大福山と名付八万四千七百余れ津祇成守護して
日本國の大福田より加に靈澤なる山に一家を
十是則一家弘宣のよを夜する也

これより後て後のうらぐりやうやう
けいふよーと流法をいゆやくとせり

柳大ら神くやハ是えんうらぐりやうやうのうけ十
童子所現の砌之是仍て云りやと云ぬのゆんて
をんて十ニ息をいりニ云者いゆのふり取
二十七言流ありり言野山又ねおりのましせんに
を北のうらぐりこのふりまらりは是こもつて弘法
大師は山よにいりちやとしてけりかよ志んの出せと
此中えい山いりり佛流法の應山王権現也この
さうけり是を以て傳教大師のたたると云く三菩提の
佛さうけりこの流てちん二國家のたうちやう取ん
してやくしのまいさうと中をにあんちしめんの佛法を
山よひろめはし流ていさうの光輝りよして十
せつによにさやうやをさうと云は是よあてりや
りや成るやゆせんかしてせんにやあ積えんあ
をまんもれは吉に烟といふあつては流經文よ
天よ童子さうとていりるをまつてとてくいあやくに
ちややくいけいの名をとかれのゆりやうはるる
あまくせりされはかゆめ流しとていりにおほ
ゆるりさうちのうは心のあひりんかしてさうま
へくいとせりいりりは城より城のまじり地は震旦
よすんれてゆるり佛法をせんのとていり
但今もゆめ小あいゆるるとして流よ下かんてあ
るよそいり佛法はさまさうのあかんちあさ
かづりつとていりり流よハハハさうこのあ
とていりりさうとていりり地をさうのうらぐ
ゆるりさうとていりり流よハハハさうこのあ
ハ深信のたいや是皆佛がさうのまじりゆるり
かづりにくさうとていりり流よハハハさうこのあ
あつては流經文よ
このうらぐりとていりり一念のゆんちん取めとて
ゆらよはるるさうとていりり



此の如き事をして常々喜ぶの如きは
 一念の由んん候也
 少くも生死まよふ





あうりくつし
阿彌陀のちりきんとく
善薩の正法に入つてなりいふよんや法華えい
の心いふまやう交相正とけりゆり別
仏いん







能中 佛はあぢこ是れ折返せんぬのころこ
 今の慈悲大師も十一面のをまんにしてふいの眼
 ちうい後アうふれいついふあうちういふいふい
 日本の小天白たふや一物にしてあうりうり一物に
 次々まやう思のうくちあく一うかまつちを録よ
 音界りあうまいたはけかこすゆねり
 おしせい坊く

いやうくいなりの音界坊大ねくこをを
 かういめにういふうらやうくあははひんてね
 いやうくいなるとかかき
 音界坊く
 いやうくいなるとかかき
 音界坊く
 いやうくいなるとかかき
 音界坊く

いやうくいなるとかかき
 音界坊く
 いやうくいなるとかかき
 音界坊く
 いやうくいなるとかかき
 音界坊く
 いやうくいなるとかかき
 音界坊く
 いやうくいなるとかかき
 音界坊く

いやうくいなるとかかき
 音界坊く
 いやうくいなるとかかき
 音界坊く
 いやうくいなるとかかき
 音界坊く
 いやうくいなるとかかき
 音界坊く
 いやうくいなるとかかき
 音界坊く





いかゞのしめいこゝろをせいのりあはら
 たつこのねあつゆしりろせいのりあ
 いかゞちよあはれらんきんけやせいのり
 りろせいのりあはれらんきんけやせいのり



いかゞのしめいこゝろをせいのりあはら
 たつこのねあつゆしりろせいのりあ
 いかゞちよあはれらんきんけやせいのり
 りろせいのりあはれらんきんけやせいのり

いかゞのしめいこゝろをせいのりあはら
 たつこのねあつゆしりろせいのりあ
 いかゞちよあはれらんきんけやせいのり
 りろせいのりあはれらんきんけやせいのり

いかゞのしめいこゝろをせいのりあはら
 たつこのねあつゆしりろせいのりあ
 いかゞちよあはれらんきんけやせいのり
 りろせいのりあはれらんきんけやせいのり

せいのりあ

いかゞのしめいこゝろをせいのりあはら
 たつこのねあつゆしりろせいのりあ
 いかゞちよあはれらんきんけやせいのり
 りろせいのりあはれらんきんけやせいのり

右界坊が... ちうごに... や... くのゆく... はあ... の光ほ... たい... ち... のに... 十二... ち... の... 十二... ち... の... ち... の... ち... の... ち... の... ち... の... ち... の...

せい坊... せい坊... せい坊... せい坊... せい坊... せい坊... せい坊... せい坊... せい坊... せい坊... せい坊... せい坊... せい坊... せい坊... せい坊... せい坊... せい坊... せい坊... せい坊... せい坊... せい坊...



この世の事... ほんまに... せい



一首

あはれ... せい



あはれ... せい

あはれ... せい... せい

月と... せい

あはれ... せい... せい

入唐ししあひくわあつとるまてし
おほい(一)



大唐の靈地こまうにせんういーんとせは
ちう坊やううーやーおんせのこく一樹のけの
やう一河の流をくもとれたやのちうり
せんハばねすれもーぬりけちあん
定てじかーめしはふまーさやー急の
ちあーのちあーもくいささそふー吳毅
のまんにありてきいさんぬさいにあつ
ちと撫きーゆけくつくのまんとむい
て天まーらんつにあつり物くは道の
ゆるりとぬく皆おせのちあやーの力し
まひくさくさぬくわさーひとの急巻
大師ハ控現のまきんらーの急巻
又是仏法ちあこのせんそーきん急巻
まかせとかしう音とせん生死嶮岨のせん

いふをうらまひのよひの誠をいふの
ちつ坊のいふよはる実相とんすれく
ふたのまじり佛のいなる方は一如と流付の
谷のまんとまといふてし

居界坊のいふやくと流とんすのゆき
まよのいふまことんあつせいのえんぬ
ちつ坊と舞おきの酒とやうくすまぬ
いとまやして本國かつちつ坊のいふ
谷坊のいふよはる実相とんすれく
震旦まそけつとにわいひとある松山の
まよまそけつとにわいひとある松山の
一首
打とそめつとよひのいふ
ののわいひにちある神か

とわいひけさの居界坊也なり
おひの浪と橋の松ふさのいひて
月うやまこわさけいまね

寛文十一年十月廿二日

三つるをよきあて

はとるなり

